

町並み散策ばらり in 神奈川 十日町市場のなごりを歩く ～秦野四つ角周辺～

秦野は江戸時代中期以降、四つ角を中心に十日市場の街として商店街が形成され、江戸時代後期になると秦野葉煙草の生産拠点として栄えたが、関東大震災の大火で町が消失した。防災のため当時としては幅員を広くとった道路が整備され、洋風建築や蔵などが建てられた。それ以前の木造建築による町家の姿も多く残されている。

本町四つ角周辺には現在でも蔵が多く見られ、散策しながら発見するのが楽しみでもある。置屋根形式が15棟、塗込め屋根形式が33棟ほど残存していたが時代とともに姿を消していくのは寂しい。用途は家財の収納蔵や穀蔵、商業蔵として利用されているほか、住宅や喫茶店に改造されている蔵もある。

(資料提供 わいわいはだの市場実行委員会)

① 旧保全堂洋館



② 旧ますや洋館



③ 五十嵐商店洋館



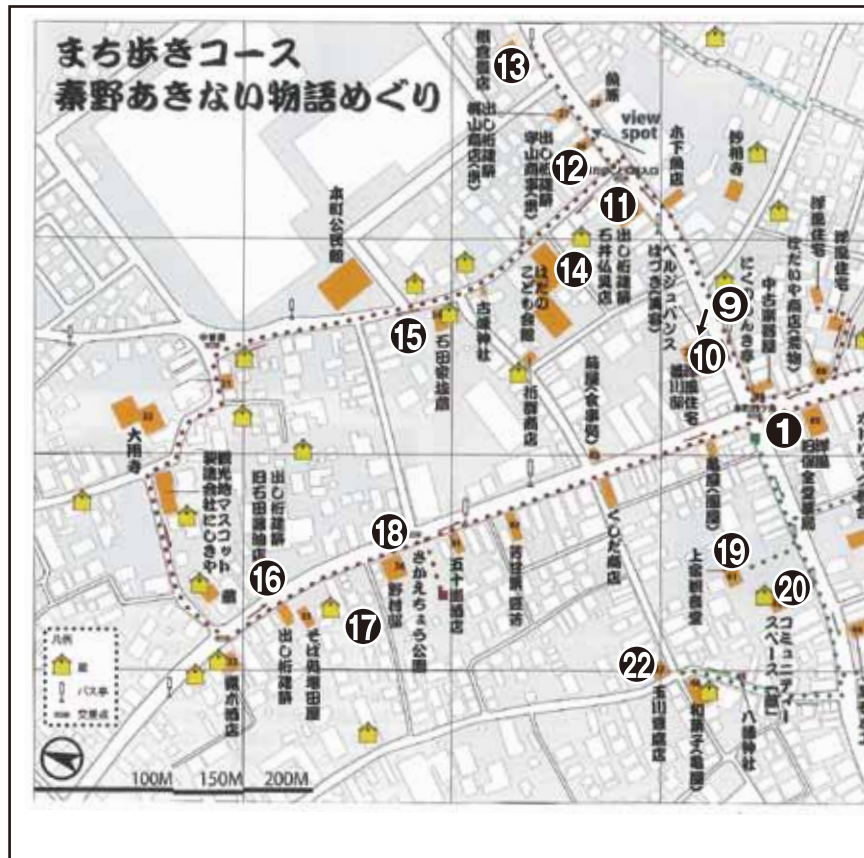
④ 片倉商店(出し桁建築)



⑤ 立花屋茶舗



⑥ 清水寅吉商店



⑦ 蔵(塗込め屋根形式)



⑧ 豆峰落花生店



⑨ はづき美容室



⑩ 普川邸洋風住宅



⑪ 石井仏具店(出し桁建築)



⑫ 石田家塩蔵



⑬ 旧石田醤油(出し桁建築)



⑭ 蔵(置屋根形式)



⑮ 野村邸

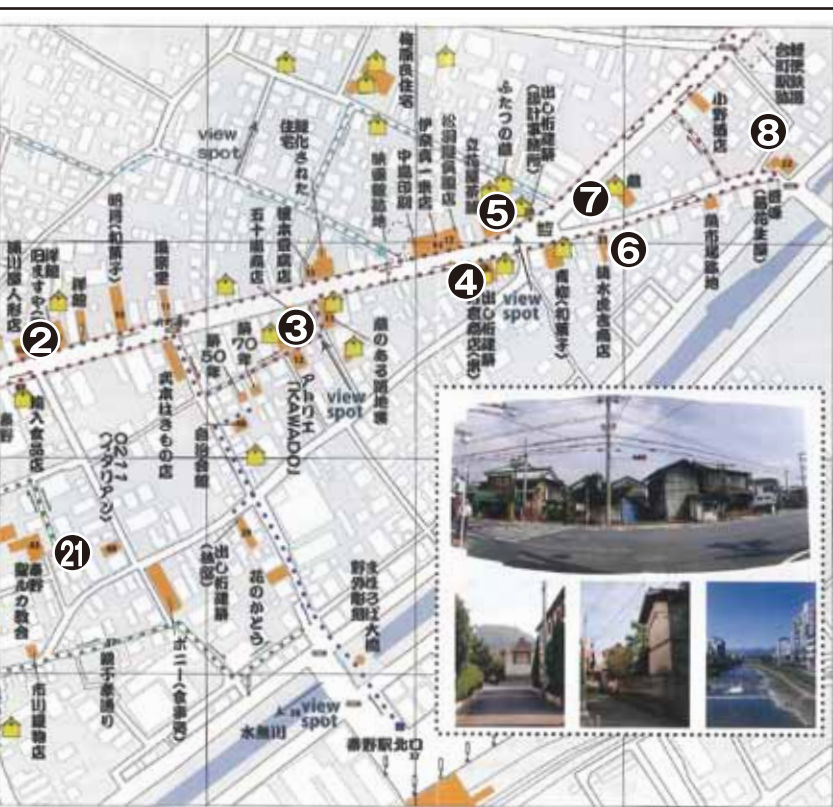


⑯ 上宿観音堂





昭和30年頃の本町四つ角



①昭和に栄えた薬局。看板建築だが端正なファサードが特徴。側面の建具のディテールも興味深い。

②昭和初期の建築。切妻平入りで2階は和瓦、1階下屋銅板瓦檺葺、太い梁、磨き漆喰の壁が印象的。

③昭和3年建築と伝えられる看板建築。ファサードの特色は2階の窓枠から底にかけての精緻な造形。

④出し桁造りの米、炭などを扱う老舗。シンメトリーに配された建具が端正さを際立たせている。

⑤「かながわの建築物100選」に指定されたルネッサンス様式を感じさせる看板建築。竣工は大正14年頃。

⑥新しい街並みの裏にひっそりとたたずむ蔵。老朽化が進んでいるが再興を祈るばかり。

⑦蔵と出し桁建築の店舗。商業蔵としては大きい部類に入るのでは。珙瑯看板も今や貴重な遺産である。

⑧明治38年塩の専売制に伴い建築され、秦野の塩の専売を担ってきた。入口は引き戸式の大坂引戸形式。

⑨創業は慶応元年に遡る店舗を兼ねた母屋の建築は明治期と推定される。敷地内には2棟の蔵も有する。

⑩出し桁付き、鋳物の瓦銅板巻の破風、黒漆喰塗の外壁、太い樺柱など、商家としての立派な構えを持つ。

⑪1階は米を入れる納屋、2階に居住スペースを置く土蔵を併設。現在はトタンで覆われるが当時は漆喰塗り。

⑫数少ない置屋根形式の蔵。白壁が真新しい、新築の住宅とのコラボが現代的なのかもしれない。

⑬住宅街をふと見上げるとそこにも蔵が。外部は濃いグレー色で落ち着いたが材は遠く不明。

⑭天保3年の建築とされる旧家。現在はトタン屋根だが、もとは茅葺屋根。かつての当家は漢方医だった。

⑮創業90余年、秦野名産落花生の老舗。昔ながらの店構えは貴重な存在。隣接工場も趣を残し操業。

⑯主に塗られた本堂が目を引き、参道には上宿観音市が開かれ商店街の活性化に役立っている。

⑰質実なアールデコ風の平屋建て店舗建築。当時は材質感が生きていたが補修され塗り替えられている。

⑱外部、内部とも原型を損なうことなく補修され、展示場など時利用される。2階は流しやトイレも完備。

⑲江戸時代以降の旧家で店舗、住宅、蔵で構成される分棟型の配置構成は近代性を意識している。

⑳関東大震災後再建された。礼拝堂の趣は当時のままである。木造トラス、鉄板葺による大屋根を持つ。

㉑出し桁造りの店舗。老舗の神仏具店である。生業を象徴する右端の看板もいい味を出している。

㉒看板が示すとおり老舗豆腐店。角地にあることで寄棟の屋根が生きる。その所為か軽快な趣がある。

⑫ 宇山商店(出し桁建築)



⑬ 梶山米店(出し桁建築)



⑭ 蔵(塗込め屋根形式)



⑯ コミュニティスペース「蔵」



⑰ 秦野聖ルカ協会



⑲ 玉川豆腐店



【参考文献】秦野の住まい(2) (秦野市教育委員会刊)

中栄信用金庫webサイト/秦野市観光協会webサイト その他
(作成: 秦野支部 田代 茂夫、矢野 高、澤田 晃一)